

平成22年 収支内訳書

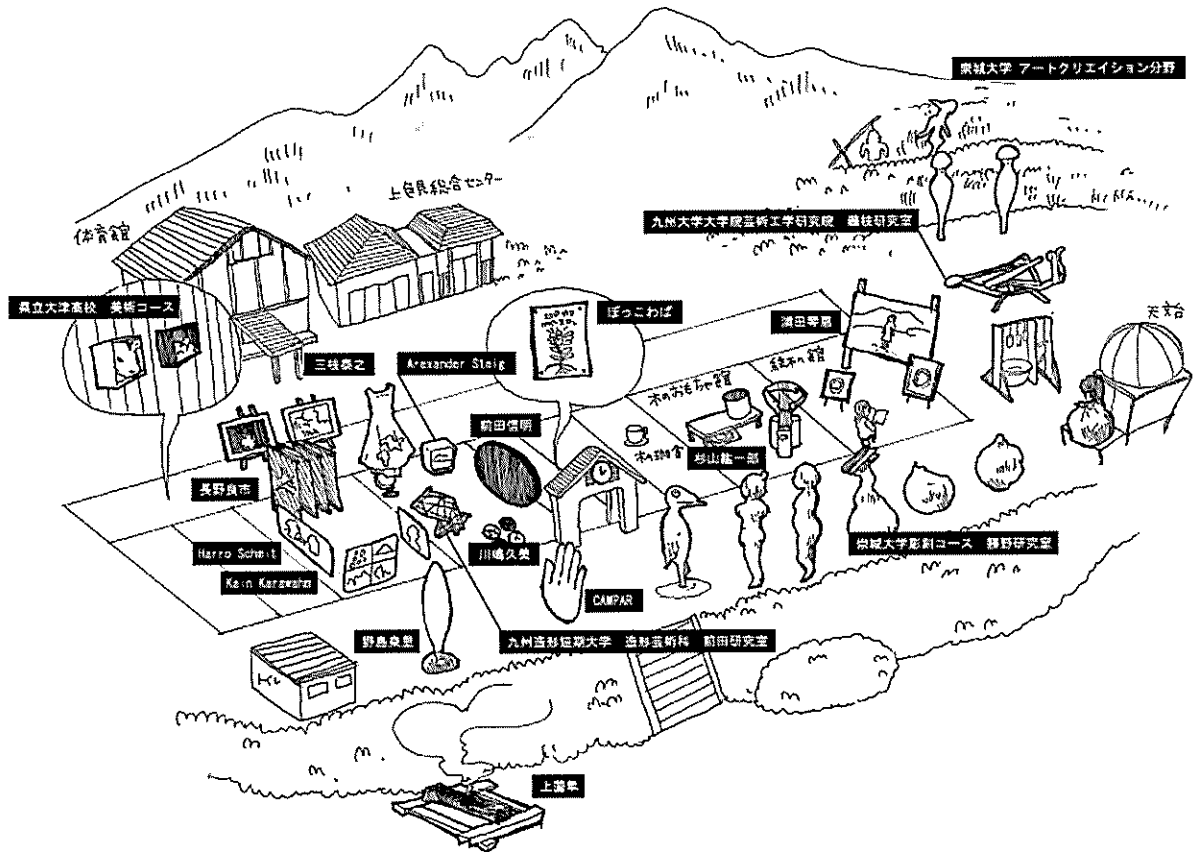
単位:円

三枝泰之

		アートメEDIUM		
	区分	全額	決算修正	小計
収入	熊本放送文化振興財団	100,000		100,000
	財)熊本県芸術文化振興会	100,000		100,000
	熊日文化スポーツ基金	100,000		100,000
	計	300,000		300,000
支出	リース料			
	光熱費			
	消耗品費	8,366		8,366
	通信費	2,000		2,000
	旅費宿泊費	160,291		160,291
	地代家賃			
	搬出入費	102,860		102,860
	接待交際費			
	印刷費			
	外注工賃			
	資料費			
	車両関連費			
	福利厚生費	9,690		9,690
	減価償却費			
	損害保険料			
	租税公課			
	修繕費			
会費	3,000		3,000	
	計	286,207		286,207
	差引残高	13,793		13,793

GENESIS-1
起源展
2010

【展示会場】 Exhibit site



はじめに

三枝泰之 (Genesis-1 起源展実行委員長)



今回の起源展に至る以前、二回の熊本に於けるヨーロッパのアーティストとの交流展覧会から、幾つかの示唆を得ました。それは東西共通の時代感覚を共有しているということであり、そのことによる交流の可能性と限界です。

まず大きな、共通項として挙げられるのは、世界的な規模で情報通信環境は整備されているということと、それによる資本主義的な市場経済に覆われているという自明性です。また、その事実から対抗文化的な作品制作が発想され、展覧会も運動体となり得るということです。しかしそれを支えているのはまたその共通の経済や文化システムです。

現代美術館や現代美術の展覧会は、一握の文化人層に対しては関心の場になり得ているだろうが、一般的に現代アートへの理解は甚だ遠いものです。それは興行としての現代美術という部分の地域的な限界であるともいえます。しかしオルタナティブな文化運動としての現代美術という側

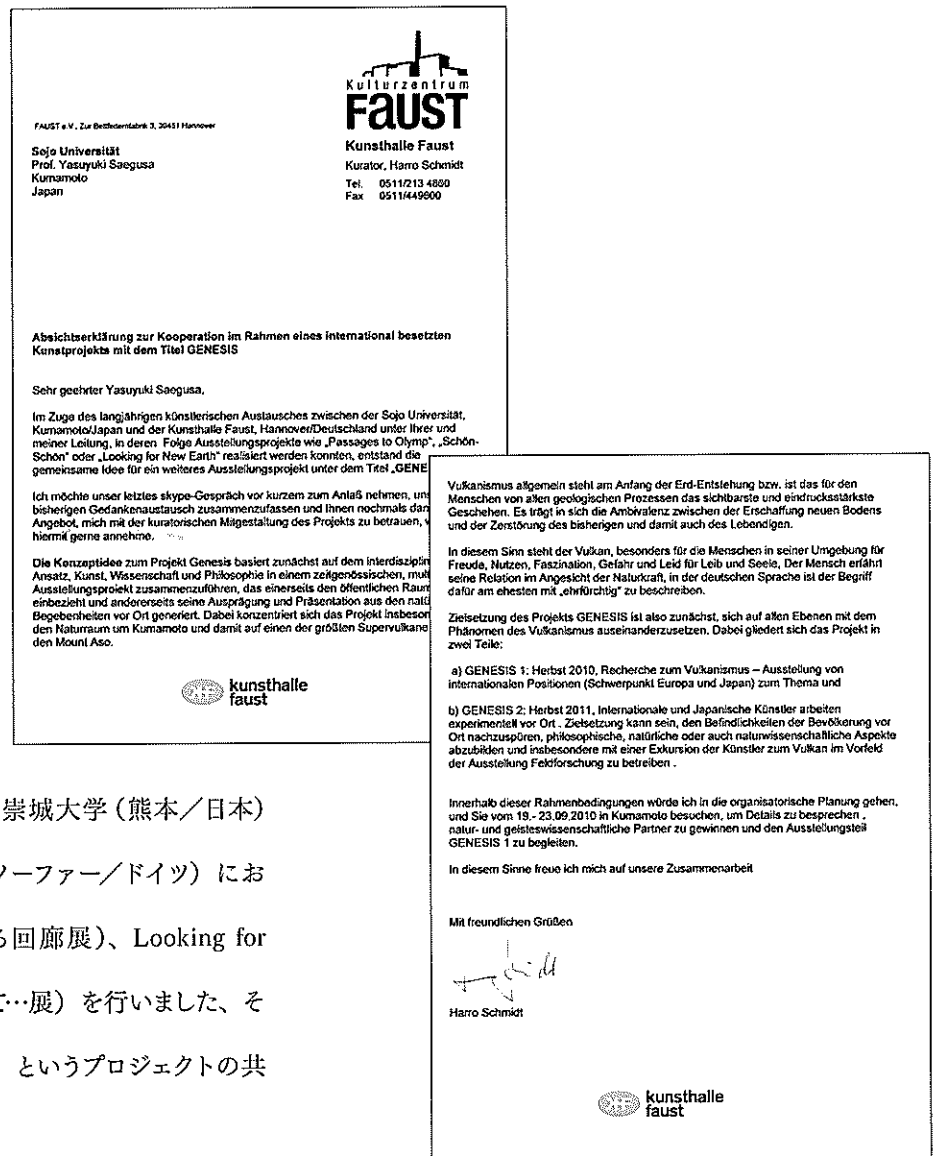
面から見るとその萌芽を見ることは難しくないでしょう。現に多くの町おこしの材料として全国で実施されています。

Genesis 起源展は単に現代アートを使った地域再生事業や観光資源開発を行うというものでなく、人間中心の視点から離れ地球の声を聴こうというものです。そこから同時代的でグローバルな異文化交流など実践を通して文化として認識されなかったモノやコトの発見へ繋げようとするものです。

今回の多ジャンル交流パネルディスカッション「火山・アート・人間」に於けるキーワード、「火山・珪石・水晶・精神活動・文化発生など」から「火山活動という名付けられない実体」との類比、思想・哲学への展望があります。シンボリックなサイトから地元 NPO 阿蘇フォークスクールとの有機的な交流を経て、アートという一ジャンルの制作・発表だけではなく息づく文化づくりを考えています。

Genesis 展という国際アートプロジェクトについて

Kurator, Harro Schmidt ハロ・シュミット (Genesis-1 起源展 EU キュレーター)



これまでの交流の経緯として崇城大学(熊本/日本)とクンストハレ・ファウスト(ハノーファー/ドイツ)において Passage to Olymp (聖なる回廊展)、Looking for New Earth (新しい地球を探して…展)を行いました、そして今回 GENESIS (起源展) というプロジェクトの共通理念へと到りました。

起源展の内容は芸術、学問と哲学の学際的な志向に基づき、その土地(阿蘇)に根ざした展示をする事にあると思っています。火山活動は土地を生み出しますが、破壊もします。この喜び、利益、魅力、危険、そして心身の苦悩、これらはドイツ語の概念では「畏敬の念をこめた」となるでしょう。

プロジェクト Genesis はあらゆる次元において火山活動現象と取り組みます。Genesis1 は 2010 年火山活動調

査、テーマとしてはヨーロッパと日本に重点を置いた展覧会。Genesis2 は 2011 年国内外の芸術家が実験的に滞在制作をする。現地の人と交流し哲学・自然・自然科学的視点の表現やフィールドワークなどがあるでしょう。

今年は9月に来日し、詳細を話し合い、自然科学的/精神科学的なパートナーを得て、ジェネシス1を共にしたいと思います。

10.07.10

Genesis 起源展によせて

坂本顕子 (熊本市現代美術館)

エルニーニョはペルー沖の海水温の上昇でおこる、冷夏・暖冬現象であり、ラニーニャはその逆で、同海域の水温低下によりおこる、猛暑・厳冬現象である、という声がラジオから聞こえてくる。2010年の猛暑は、おそらくこの二つの現象の重なりが要因となって、引き起こされたのではないかと識者が語っていた。

Genesis 起源展を見にこないかという一本の電話をいただいたのを幸いとばかり、アスファルトに嫌な熱の残る熊本市内を抜け、車で阿蘇谷に向かった私を迎えてくれたのは、薄手の長袖シャツの中へとしみてくるような山里の冷氣と、暮れる景色の中にこんもりと白く浮かびあがる満開の蕎麦の花だった。しかし、土地の人に言わせると、それでも例年より暑いと感じる日も多かったという。アンデスの沖から来る熱波はここまで届いているのだ。

廃校となった旧上色見小学校を改装した、阿蘇フォークスクールを舞台に行われた Genesis 起源展は、日本側に三枝泰之、EU 側にハロ・シュミットという二人のキュレーターを立て、国内外から 10 名のアーティストと、熊本・福岡から 5 つの教育機関、そしてライアーとオイリュトミーのパフォーマーが集められた展覧会である。また、火山や教育の専門家を交えたディスカッションや、土を使った子どもの

ためのワークショップも開催された。

これまで、阿蘇は多くの画家たちによってその美しい姿を数えきれない程描かれてきた。しかし、意外なことに、阿蘇をテーマにした現代美術の展覧会は、管見する限りにおいて、開かれたことはなかったのではないか。その点において、また美術という狭義にとらわれず、幅広い分野からのアプローチがなされている点は評価すべきものである。

アーティスト達の作品は平面、彫刻、写真、ビデオアートからパフォーマンスまで多様であり、その質量がまだ阿蘇という歴史や存在そのものと拮抗する迫力を持ち得ていないと感じさせるものもあったが、登山家が名峰の山頂へのアタックを続けるように、大切なのは、表現を継続することであり、多くの批評にさらされて磨かれ、その表現の強度を増していくことである。

冒頭の気象番組は、こう結んでいた。エルニーニョとラニーニャはスペイン語で神の子(男の子/女の子)を指す言葉です、と。健甞龍命(たけいわたつのみこと)が作ったとされる阿蘇谷で、世界から神の子たちが集い、再び阿蘇の神話をひとつひとつ掘り起こし新たな時代へ向けて語り直していく儀式こそが、Genesis 起源展であるとすれば、それ以上にふさわしい言葉は無い。

Opening Performance 旧上色見小学校



Opening Chorus

コーラス：はなしのぶコーラス

平成8年9月、高森中学校PTA活動の一環として「ママさんコーラス」が発足、翌年高森を代表する花「ハナシノブ」に因み、名称を「はなしのぶコーラス」と改める。高森中学校文化祭、吹奏楽部定期演奏会、地元イベント等に出演。県劇での「県合唱祭」にも5回出場。「無理なく、楽しく、出来る時に……」そして、「継続は力なり」をモットーに現在15人で活動。童謡、唱歌、日本歌曲、歌謡曲を得意とする。

指導者 工藤 のぞみ

代表 堤 峰子

Opening Performance

制作年：2010

作家名：Airman：オイリュトミー／宇佐美陽一、即興演奏／ヨー・コージ

作品説明：「空気を動かす点では共通の音楽とダンス（オイリュトミー）のユニットです。

結成4年で初めて青空の下でのパフォーマンス。大気の流れを満喫しながら、どれだけ雄大な自然と動きや音の対話ができるのかとの想いは、皆様に届いたでしょうか？」

Exhibition 展示



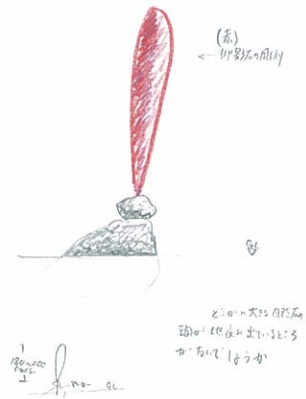
Go West

制作年：2010

作家名：CAWPAR

作品説明：西遊記に出てくる釈迦の手を模した作品。

展示会場に訪れた鑑賞者は、作品に自由に絵や文字を書き込むことができる。不特定多数の人に書き込まれることによって経時変化し、3.5次元的要素を獲得する。鑑賞者参加型作品



ノンセンス・空間

制作年：2010

作家名：野島 泉里

作品説明：人間が生まれる前の世界には意味と言うものは存在しなかった。意味が人間の世界を豊かにしたのも事実だが、人間が言葉で捉えられないものは無限に存在する。人間は時々、無意味なものに浸って、頭をリセットしたほうが良い。造形と言うものを愚直に進めていけば無意味なものに到達するものだ。それは意味がなくても存在しうる世界だ。阿蘇と言う大自然の根源と、人間が作り出す無意味の出会い。根源なるものへの回帰と言えなくもない。

素材：御影石 地元自然石



react

制作年：2010

作家名：上園 隼 Jun Uezono

作品説明：react

1. 互いに影響し合う、作用する。
2. 反応する、対応する。
3. もとの状態に戻る、逆行する、反発する、反抗する。

素材：木、鉄、火

プロフィール：

1982 熊本に生まれる

2006 筑波大学芸術専門学群 卒業

2008 筑波大学大学院芸術研究科 彫塑分野 修了



サウンド・リノベーション in ASO

制作年：2010

作家名：杉山 紘一郎、渡辺 融、岡崎 峻、光永 誠

作品説明：上色見に眠る廃材を使って、楽器を創作するという試みを行った。牛小屋であった場から見いだされた素材に注意深く耳を傾けることによって、楽器群は制作されている。過去の記憶として残された廃材から、響きを浮かび上げさせ、楽器として新たな生命が吹き込まれていく。

素材：上色見の廃材（木、鉄、塩ビパイプ等）

プロフィール：

杉山 紘一郎

1980年、名古屋に生まれる。九州大学大学院芸術工学府（藤枝研究室）にて博士号取得。共振現象やエオリアン・ハーブに着目し、新たな構造の楽器デザインを研究。

渡辺 融

1981年、京都に生まれる。九州大学大学院芸術工学府藤枝研究室所属。アメリカの土笛製作者の実践や古代の土笛に影響され、その多様性に触れたのをきっかけに土笛の研究、製作を始める。

岡崎 峻

1986年、埼玉に生まれる。京都大学農学部卒。現在、九州大学大学院統合新領域学府藤枝研究室所属。

光永 誠

1986年、横浜に生まれる。京都大学総合人間学部卒。現在、九州大学大学院芸術工学府河辺研究室所属。物理学専攻。



Seed・芽

Seed・根

制作年：2009

作家名：森田 一成

素材：FRP

プロフィール：崇城大学芸術学部美術学科 博士課程 2年



雲の人

制作年：2010

作家名：東 耕平

素材：FRP



FOREST GIRL

制作年：2008

作家名：東 耕平

素材：FRP

プロフィール：崇城大学芸術学部美術学科 博士課程 3年



桜島のドロイング

制作年：2010

作家名：浦田 琴恵

作品説明：空、噴煙、溶岩、森、海……。生命力あふれる火山の風景は、私たち人間とよく似ています。

素材：水彩、顔彩



桜島ガール

制作年：2010

作家名：浦田 琴恵

撮影場所：桜島黒神地獄河原 カメラマン：河野 セイイチ

素材：オリジナルプリント

プロフィール：アーティスト。1979年静岡県生まれ。多摩美術大学情報デザイン学科卒。2007年より桜島在住。火山をテーマにしたインスタレーションや、廃業した温泉ホテルや空き家を使ったプロジェクト、コスプレ写真、九州のアートスペースを巡る旅のプロジェクト、人の家の玄関を借りて行う「玄関コンサート」、ワークショップ「おてがみかきどころ」など、ジャンルにとらわれない様々な活動を行なう。http://kotoe.ifdef.展

「わくわく混浴アパートメント」コーディネーター（大分・別府）

・『琴姫プロジェクト～九州アートを探す旅～』2008（九州全土）

・KOTOBUKI クリエイティブアクション2008（横浜・寿町）

・SA・KURA・JIMA プロジェクト2007（鹿児島・桜島）事務局長

・取手アートプロジェクト2006（茨城・取手）



まわるだいち

制作年：2010

作家名：川嶋 久美

作品説明：長い長い年月の中で大地に破壊と再生をもたらす火山の力を、旧小学校という場で童心に戻って考える機会になればと思い作りました。

素材：人工芝マット、品ベニヤ、アクリル絵具など

プロフィール：

1983 福岡に生まれる

2005 九州芸術工科大学芸術工学部画像設計学科 卒業

2007 九州大学大学院芸術工学府芸術工学専攻 修了

2009 河原町アワード2009

ミドリネコ賞・ゲスト審査賞



ボックスアート テーマ『阿蘇 あそ ASO』

制作年：2010

作家名：熊本県立大津高等学校美術コース 2・3年

作品説明：阿蘇郷の入口に位置する大津町に熊本県立大津高等学校はある。校舎の渡り廊下からの噴煙の昇る阿蘇の風景の眺めは素晴らしく、生徒たちは日々阿蘇から吹く風を感じながら勉学に励んでいる。生徒ひとり一人が、「阿蘇」をテーマに多様なアプローチを持ってボックスアート制作した。
素材：木、布、紙、粘土、その他



火山 阿蘇

制作年：2008～2010

作家名：長野 良市

作品説明：阿蘇で生まれ育った写真家が約30年間に撮影してきたフィルムとデジタルデータから、火山阿蘇を表現できる内容を選択した。

素材：インクジェットペーパーとポリエステル生地

プロフィール：1957年阿蘇生まれ

1981年青山学院大学卒業

1983年日本写真芸術専門学校 報道写真（樋口ゼミ）卒業

以後、阿蘇を拠点に「東アジアの中の九州」をテーマに写真家活動 写真集「阿蘇」（時事通信社 1992）など写真集多数（社）日本写真家協会（協）日本写真家ユニオン ピンホール写真芸術学会会員 <http://earth-aso.jp/>



起源 a yuga wedding

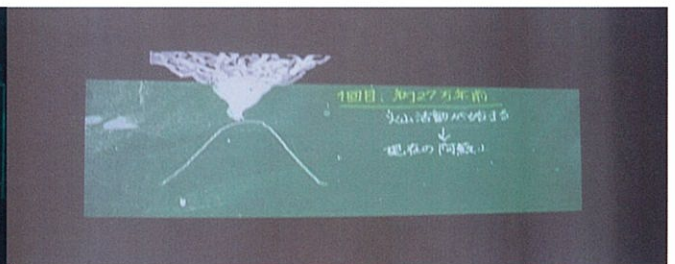
制作年：2010

作家名：三枝 泰之

作品説明：この星の起源は、言語・法律や歴史を纏ったウェディングドレスの中なのか？いや、まだ名付けられず、満ち

干きながら横たわっている、海と山そして火山の中にあるだろう。(ヒンズーのカリ・ユガは43万2000年続く)

素材：ウェディングドレス、地球儀、ミクストメディア、刺繍物



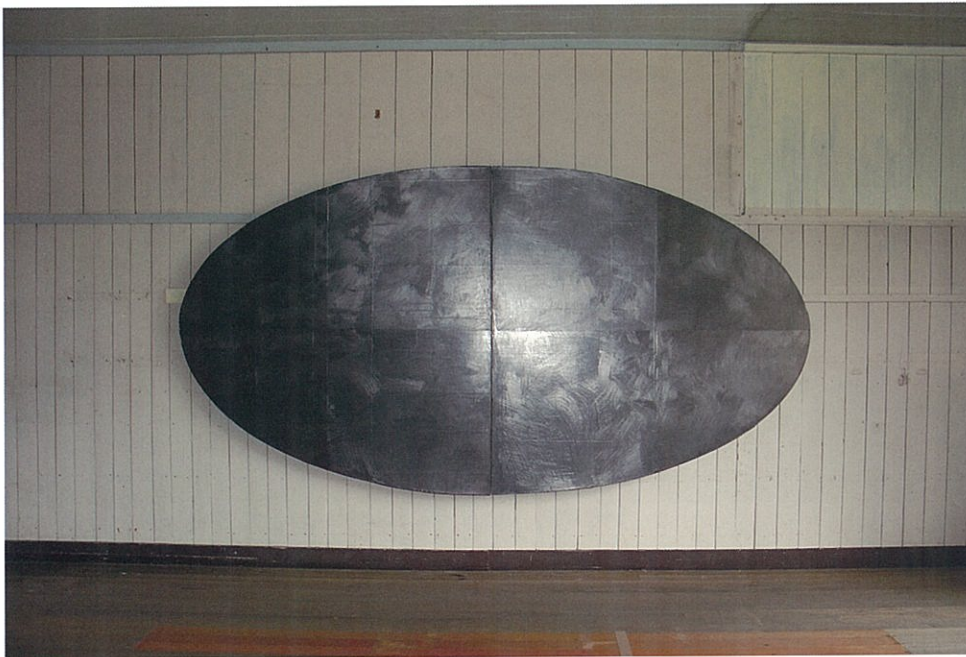
阿蘇空学級 — Genesis ASO —

制作年：2010

作家名：崇城大学（児玉 佳恵 小川 ゆりか 近延 翔平
森野 志織 有馬 正裕 稲田 明菜）

作品説明：雄大な阿蘇山の誕生から現在までの30万年間を白いチョークと緑の黒板を使ったアニメーションで表しました。ゆつくりとかたられるナレーションを聞きながらお楽しみください。

素材：チョーク 黒板 FinalCutPro



CRASH of TIME - REQUIEM

制作年：1998～2010

作家名：前田 信明

作品サイズ：185 × 362 × 10cm

素材：アクリル絵具・顔料・和紙・合板

プロフィール：

1949 熊本市生まれ

1982 渡米 (N.Y.C. USA)

●主な個展

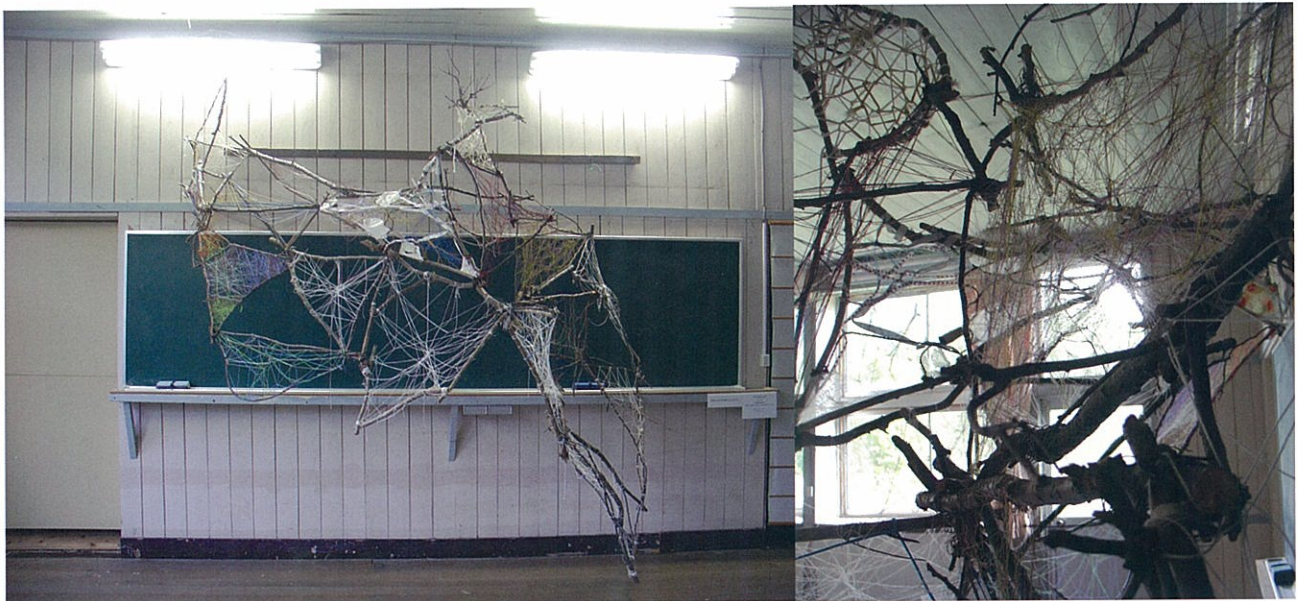
1975 サトウ画廊 (東京)

1984 銀座絵画館 (東京)

1995 熊本県立美術館分館 (98.' 03)

2000 久我記念美術館 (福岡)

2008 調布画廊 (東京)



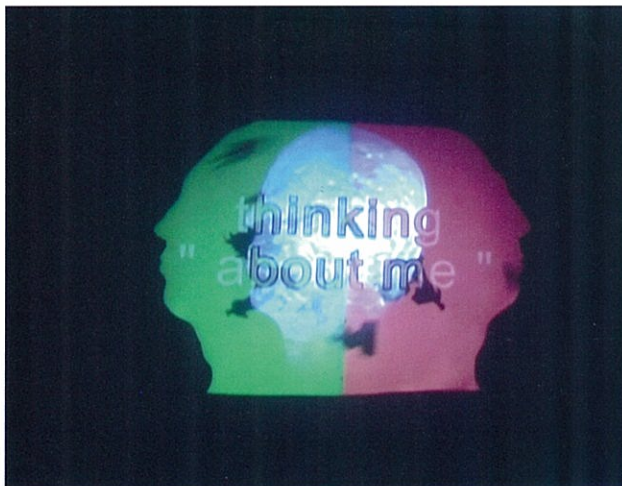
GENESIS

制作年：2010

作家名：九州造形短期大学 (高岸 美波 高橋 実里 富松 さやか 村田 紗希 桃坂 美幸 山下 めぐみ)

作品サイズ：350 × 300 × 40cm

素材：木の枝・紐・糸



thinking about me

Harro Schmidt - Germany

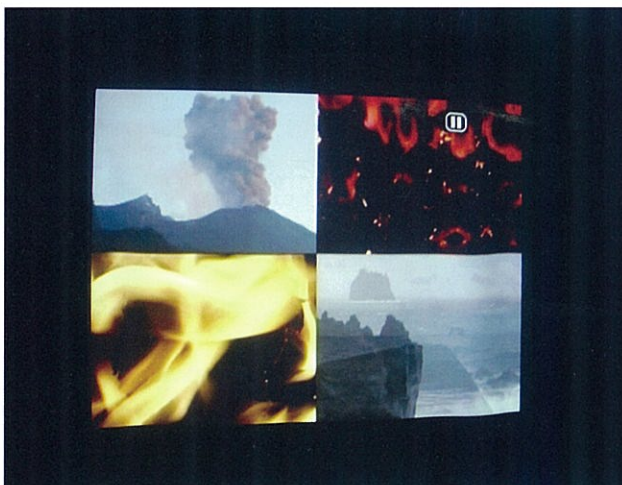
1957 Born in Grossburgwedel, Germany

1980 - 91 Degrees in: - Fine Arts at the College of Art and Design, Hanover with Stefan v. Huehne and Prof Ulrich Baehr- Geology and Paleontology at the University of Hanover, Germany

1992 "Meisterschüler" (master class student) of Fine Arts with Prof Ulrich BAEHR since then working as an independent artist at home and abroad

since 1998 Curator of numerous international art projects at the Kunsthalle Faust, at home and abroad

Director, Kunsthalle Faust/ Hanover, Germany



UNDICHTE Edition Vulkanal EV 1002

Kain Karawahn - Germany

videoambienteloop dvd PAL © Kain Karawahn 2004

filmed at 3. & 5. Internationaler Feuersalon

Stromboli/Italy 2002 & 2004

Volcano Observatory Hunaland 2004

7.000 Bu"cherfeuer

transmedia-festival Berlin 1997

Drachengesenge Oberhausen 2003

excerpt „7.000 Bu"cherfeuer "by Ninon Liotet

www.ichbrenne.de

www.mitfeuerspielen.de

www.VolcanismInTheArts.



Transitory Volcano (Cityscape of Paris)

Alexander Steig - Luxembourg

Video-installation, 2010, running-time (Video-Loop): ca. 10 minutes

Technique: DVD-player (with auto-repeat), DVD, monitor

Presentation: the monitor should be fixed on a wall or should stay on a socket, so the spectator can watch comfortable and easily. The work does not have sound. If you may use a video-projector, I would agree; please make the size of the projection/screen not larger than 150 cm diagonal.

Please take care, that the surface of the monitor does have reflection of daylight or artificial light. You may show this work in a darker place.

Lyre Concert「Volcano in Aso / ボルケーノイン阿蘇」肥後ライアーの会



9月26日 3:00pm-

会場：谷山

作家名：肥後ライアーの会

プロフィール：平成11年に阿蘇に移り住み、翌12年春に初めてのライアー合宿をしました。その時のメンバーの中で、熊本在住の方々が月に一度の練習会に集まり、今では、10人程の定着グループとなりました。毎年、夏の終わりには、全国から集まるライアー合宿を企画運営したり、数名の小さ

なアンサンブルグループもコンサート活動をはじめております。始めたばかりの予備軍も肥後ライアーの会に入る日を夢見て、練習に励んでおります。レパートリーも少しずつ増えて、ライアーの美しい音色を多くの皆様に聞いていただける様に、楽しみながら、練習を重ねている次第です。

肥後ライアーの会主催
ライアー奏者 池末 みゆき



Biodynamic ぽっこわば耕文舎

ドニー・ピリオ & 假野祥子

「阿蘇の山とは宇宙からの諸力を受け取るアンテナ」

制作年：2010

作家名：ぽっこわば（バイオダイナミック農法）

作品説明：中岳ををはじめとする阿蘇五岳や外輪、内輪の山々との稜線は宇宙からの諸力を受け取るアンテナのようです。一番高い高岳がまず受け取り、次に高い山またその次の山へとどんだんどの受け取った諸力を渡していきます。その「力」[FORCE] はどんどん増幅されカルデラの中で暮らす人々里山、田畑に届きます。

「火山」はその内部にマグマをもっています。マグマは火山が噴火するエネルギーそのもので火山の外部に放出されたマグマはその後熱が冷めた後に「若い岩石」になります。マグマの中には硅素（シリカ）が多量に含まれています。（因みにほぼ100%に近い硅素の塊は皆さんご存知の「水晶」です。）この硅素の特徴のひとつとして宇宙の諸力を引き寄せる働きがあります。火山の中には硅素の他に硫黄も存在しています。硫黄はその性質から、蒸発して大気中に流れ込んでいきます。火山のある地域ではその硫黄独特の臭気を感じられなくても大気の中に硫黄は満ちているのです。また硫黄は硅素と同じように宇宙の諸力を引き寄せ届けます。

Panel discussion 【火山・アート・人間】

2010年9月20日 会場：上色見総合センター

パネラー

アート部門＝Kunsthalle Faust 館長・ハロ・シュミット（ドイツ）

農業部門＝NPO フォークスクール事務局長／牧場主・荒牧 弘幸

地質学部門＝阿蘇火山博物館館長・池辺 伸一郎

教育部門＝パフォーマンスアートフェス／MMAC 代表・星野 共

キュレータ部門＝アキ・ウェンドランド（ポーランド）

通訳＝宇佐美 陽一

司会＝三枝 泰之



人工的な社会と自然を考えようという主旨のもと「火山・アート・人間」というテーマで行った。

それぞれの立場から阿蘇や火山に関する自らの意見を出し合い、その後観客も含めてディスカッションが行われた。そんな中でも印象的だったのは地質学というアートとは遠い立場からの発言で、火山博物館の館長でもある池辺先生の体験談だった。彼は阿蘇の火口に立ち入ってはいけないという禁を犯して単身深夜に火口に降り立っていったというもので、初めて遭遇する火口からの炎に崇高で神秘的なものを体感したというのだ。その体験は今まで感じたことの無い神秘体験で something great との出会いであり、つまるところ神を見たということであろう。この発言はそれまでの各部門からの体験や報告を結ぶ発言であり、今後の展覧会や研究へとつながるものだといえるだろう。

左から

宇佐美 陽一（通訳）／Schmidth Harro（ドイツ）／荒牧 弘幸（牧場主）／池辺 伸一郎（阿蘇火山博物館館長）／星野 共（MMAC 代表）／Aki Wendland（ポーランド）／三枝 泰之（司会）



“Genesis-1 + ” 「土で作った子供たちの町」

日時： 10月2日 [土] ~ 10日 [日]

会場： 崇城大学ギャラリー

熊本市花畑町 10-25 ☎ 096-323-1158

月曜休館 / 10:00am ~ 7:00pm (最終日 5:00pm迄)



本展覧会は9 / 19—30まで行われたGenesis-1 起源展(阿蘇高森・旧上色見小学校)の関連企画です。起源展を通じて地球環境の問題を問う本展は、勝野教授(崇城大学彫刻コース)の指導のもと子供たちのテラコッタでできた町が現出します。他に起源展本展での展示作品が数点とEUのアーティストたちのメディアアート作品を数点展示。

勝野教授挨拶文より抜粋————

5月から11月まで月1回、ワークショップが開催され、幼児から小学生までの子供たちが、町のボランティアの方たちと美術学科の学生スタッフの協力のもと、「津奈木のまち」をテーマに制作し、今回はその一部を紹介しています。

子供たちの土地の土で、自らの体を使い、自分から試したり失敗を繰り返したりする体験を通し、観察力や創造力を身に付けて欲しいと思います。そして、子供たちの故郷の思い出の一つになることを願っています。

大地のメモリア ファシリテーター
崇城大学彫刻コース 勝野 真言



Specification 明細事項

【参加者】(国外3名) 1 Harro Schmidt- Germany 2 Kain Karawahn - Germany 3 Alexander Steig - Luxembourg

(国内作家7名) 団体含め60名ほど

(国内) 1 三枝 泰之(阿蘇・熊本) 2 長野 良市(阿蘇・熊本) 3 前田 信明(阿蘇・熊本) 4 野島 千里(島原・長崎)

5 浦田 琴恵(桜島・鹿児島) 6 上園 隼(熊本・阿蘇) 7 川嶋 久美(阿蘇・熊本)

【教育関連】 1 県立大津高校 美術コース30名 2 崇城大学 三枝研究室6名 勝野研究室2名

3 九州大学大学院 藤枝研究室 音響彫刻(杉山紘一郎4名) 4 九州造形短大 前田研究室6名

【Performance】 1 肥後ライアーの会6名 2 Air man(宇佐美 陽一+ヨーヨー) 2名

【研究展示】 1 ほっこわば(バイオダイナミック農法) 2名

【日時】 2010年9月19日[日] ~ 30日[木]

《パネルディスカッション》……………20日5:00pm ~

【会場】 旧上色見小学校 阿蘇郡高森町上色見1390-1 ☎0967-62-0027

火・水曜休校(祝祭日開校) / 10:00am ~ 5:00pm (最終日3:00pm迄)

【問合せ】 ☎0967-62-0027 (阿蘇フォークスクール <http://asofolkschool.eco.to/>)

【主催】 Genesis 起源展実行委員会

【共催】 NPO 阿蘇フォークスクール

崇城大学三枝研究室

クンストハレ・ファウスト (Kunsthalle Faust, Hannover)

【協力】 紅蘭亭

MMAC

谷山

(株)九州ユニバック・みつい

Tomek & Aki

南阿蘇えほんのくに

ペンションマチス

高森町観光協会

株式会社アイロード

【助成】 財) 熊本放送文化振興財団

熊日文化スポーツ基金

熊本県芸術文化振興会

財) 阿蘇地域振興デザインセンター

“Genesis-1 +” 「土で作った子供たちの町」

【日時】 10月2日[土] ~ 10日[日]

【会場】 崇城大学ギャラリー 熊本市花畑町10-25 ☎096-323-1158

月曜休館 / 10:00am ~ 7:00pm (最終日5:00pm迄)

【問合せ】 ☎096-326-3397 (勝野研究室)

☎096-326-4028 (三枝研究室)

